

令和5年度「小・中学校ジョイントスクール推進事業」第三中学校区実践計画書

事務局 第三中学校（教頭 長者久保希史子）

1 主題

『人とのかかわりを通して自己を高めていこうとする児童生徒の育成』

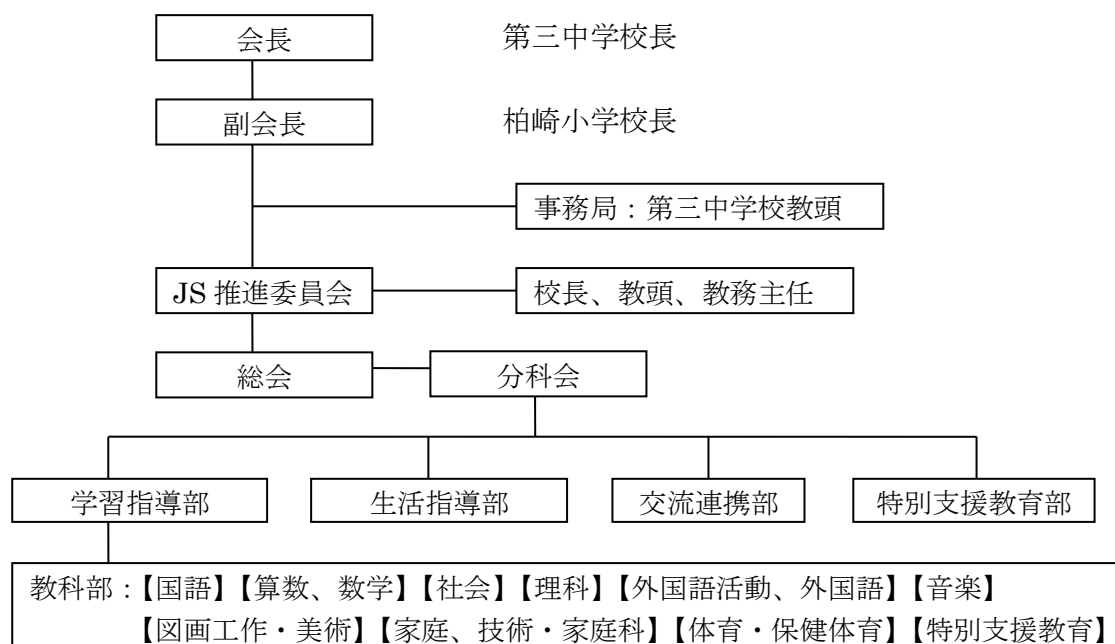
2 主題設定の理由

第三中学校区JS事業では「9年間で子どもを育てる」を合い言葉として、学習や生活の基礎・基本を定着させることを目標に取り組んできた。その結果、基本的・基礎的事項はある程度定着し、これまでの取組に関して一定の成果が得られている。

これからの予測不能な社会を生き抜くためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、向き合う過程を通して、各自が自分の可能性を最大限に発揮し、自らの生き方を創り出していくことが求められる。定まった解答を導き出すのではなく、身に付けた知識を基にしながら、その情報の中から重要となるものを主体的に判断し、自ら問いをもってその解決を目指し、他者と共同しながら最適解（あるいは価値）を生み出す力を身に付けさせる必要がある。そのためには、児童生徒の「聞く、考える、話す」力の育成、特に「他の意見を聞き、自分の考えをもち、的確に相手に伝える力」の向上を図ることが重要と考える。また、これらの力の育成は「魅力ある学校づくり」の「居場所づくり」「絆づくり」の根幹をなすものとする。また、その力を身に付けることによって、昨年度までの学習や生活の基礎・基本をさらに進化させることができると考える。

この力の育成は、学習活動のみならず、学校生活の様々な場面で育むことが必要である。小中共同で取り組む場面を明確に設定することも可能であるが、育成の趣旨を深く理解し、児童生徒の成長の段階の中でのアプローチ場面をそれぞれの発達段階に応じて設定し、取組状況について情報交換しながら、さらに指導改善することによって、一層の成果が認められると考える。

3 小・中学校ジョイントスクール推進事業を推進するための組織



4 中学校区の重点指導項目

【第三中学校区 重点指導項目】

- 自ら問いもち、学び合いのある授業づくり
- 自己を高める基本的な生活習慣づくり（あいさつ・適切なメディアとの付き合い方）

